

「日本で初めて実測日本地図を完成」

伊能忠敬遺書并遺品

香取遺産

Vol. 23



伊能忠敬は、日本で初めて実測による日本地図を完成させた人です。その時使われた測量器具・日記・地図などの資料

は、伊能家により大切に守り伝えられ、昭和32年2月19日、国指定重要文化財として指定され、現在は伊能忠敬記念館内に収蔵・展示しています。

指定された資料は、「伊能忠敬遺書并遺品（85点）」（測量中毎日書き綴った日記や日本各地の山島の方位を測定した山島方位記など忠敬自身の著書、彼の業績の結晶である伊能図や専門の職人に特別に作らせた精度の高い測量器具類）と「伊能忠敬手沢本（110点）」（忠敬が勉強した曆書などの書籍、測量中参考にした絵図類）そして「附伊能忠敬孫忠誨遺書

（20点）」（孫の忠誨が残した資料）です。

忠敬の測量方法は、当時一般的な導線法と交会法という方法でしたが、

測量器具には最新で精度の高いものを使用しました。距離を測るに鉄の鎖を使用し、坂道では割円八線対数表（三角関数早見表と類似）を使い水平距離を算出しました。方位角を測るに30分（1度の半分）まで測ることができるワンカラシン（小方位盤）を用い、両方向から方位角を測り平均して誤差の無いよう注意深く測量を行いました。また、夜間の天体観測を日本全国1000カ所以上

の場所で行い、1分（1度の1/60）まで測れる象限儀（中）により正確な緯度を算出しました。

その結果作成された伊能図は、シーボルトやイギリスの測量艦隊によってヨーロッパに持ち出され世界で高い評価を受けます。これにより、世界は地球上における未知の土地を克服し、日本は世界地図上にその正確な位置を与えられることとなりました。一方国内においては、幕末明治以降の近代化および国防上の基礎資料として、正確な伊能図はその役目を十二分に果たすこととなりました。